

## 「NAMAs の影響評価、技術、各国の違い、優先付けについて」

### 傍聴報告

2012年12月3日

一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2012年11月26日～12月7日にカタール・ドーハで開催された国連気候変動枠組条約第18回締約国会議 (COP18) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル : NAMAs<sup>1</sup>の影響評価、技術、各国の違い、優先付けについて (NAMAs: Assessing Impacts, Technology and Country Differences, Identifying Priorities)
- 日時 : 2012年12月3日 (月) 18:30 - 20:00
- 主催 : オランダエネルギー研究財団 (Energy Research Centre of the Netherlands (ECN))、チューリッヒ工科大学 (Swiss Federal Institute of Technology Zurich (ETH Zurich))
- 会場 : Side Event Room 8 (Qatar National Convention Centre)
- プレゼンター : Joern Huenteler, Tobias Schmidt (以上 チューリッヒ工科大学)、Lachlan Cameron, Laura Würtenberger, Xander van Tilburg (以上 オランダエネルギー研究財団)、Norbert Gorißen (ドイツ環境・自然保護・原子力安全省(BMU))、Renat Heuberger (サウス・ポール・カーボン社)、Syamsidar Thamrin (インドネシア気候変動信託基金(ICCTF))

#### ■ 概要

NAMAs の実施において、ファイナンス、技術、各国の事情などを考慮し、長期的視点に立った国家戦略を策定することの重要性について、様々な側面から議論がなされた。

#### 1. Lachlan Cameron (ECN) : 「開発への影響の評価と共有 (Assessing and Communicating Development impacts)」

- NAMAs の実施に伴う、社会的、経済的、及び環境面での開発への影響を評価するための可視化ツール (DIA ツール) を開発した。DIA ツールを用いることにより、例えば、ケニアでの交通セクターにおいて、NAMAs が実施 (バイオエタノールの使用、BRT<sup>2</sup>やLRT<sup>3</sup>システムの導入など) された場合、開発面での項目 (道路の混み具合や舗装状況、大気汚染、食の安全性など) に対してどの程度の影響を及ぼすのかを、簡易記号を用

<sup>1</sup> Nationally Appropriate Mitigation Action の略

<sup>2</sup> Bus Rapid Transit の略

<sup>3</sup> Light Rail Transit の略

いて容易に把握することができる。このツールが、開発の優先順位を明確化し、NAMAsを行う上での意思決定に貢献する。

## 2. Jorn Hunteler (ETH ZURICH) : 「NAMAs がどのようにクリーン技術と関係するか (How NAMAs can reflect innovation patterns of clean technologies)」

- クリーン技術にはデザインが複雑なもの(例:地熱発電や二酸化炭素回収・貯留(CCS<sup>4</sup>))と製造過程が複雑なもの(例:燃料電池や太陽光パネル)とがあり、さらにその複雑度により4パターンに分類することができる。クリーン技術を導入するためには、その技術の特徴に応じて、国の戦略を考える必要がある。例えば、電気自動車を導入するためには、デザインと製造過程の両方で高度な技術が必要となり、それには知識と物資双方の移転が必要となる。結果として、外国投資を促す戦略が必要となるためである。このように NAMAs は、国家の長期戦略と結び付けることが重要である。

## 3. Laura Würtenberger (ECN) : 「支援による NAMAs のファイナンス (Financing supported NAMAs)」

- 支援(外国資金)による NAMAs を加速させるための、ファイナンス手法についての戦略をまとめている。例えばリスクが高いプロジェクトを行う場合、公的なファイナンスの仕組みとしては、リスク保証のメカニズムや保険の機能を使うことが提案される。また、ドナー側と協力して資金提供に関する提案書を作成することや、各国の事情に応じた出資方法を選択することも提案している。

## 4. Tobias Schmidt (ETH ZURICH) : 「NAMAs 政策を補完するリスク回避ツール (Complementing cornerstone NAMA policies with de-risking instruments)」

- 国連開発計画(UNDP)は政策立案を支援する目的で、リスク回避ツールを開発した。この UNDP のツールを基に、NAMAs 政策を補完するリスク回避ツールを開発した。政策立案者はこのツールを用いて、プロジェクトに内在するリスクの原因を特定することができる。また、ツールを応用する事により、リスクに係るファイナンス費用を削減し、さらにはその障害をなくすことに貢献できる。

## 5. Martina Jung (Ecofys) : 「NAMAs 実施の成果重視によるファイナンスから学ぶこと (Learning from result-based finance for NAMA implementation?)」

- 成果重視のファイナンスとは、事前に定義された指標に基づき、検証済みの削減成果に応じて提供されるものである。この概念は既に REDD プラスなどでも議論されている。カーボンファイナンスと市場の両方で活用が可能でありメリットがあり、追加的、自発的、補完的なアプローチが可能である。

---

<sup>4</sup> Carbon Capture and Storage の略

## 6. Syamsidar Thamrin (ICCTF)

- ICCTF は、インドネシアで **NAMAs** に関する資金運用を実施してきた。ICCTF はパイロットプロジェクトを立ち上げたが、特に土地利用・土地利用変化 (LULUCF)、省エネ、適応に力を入れている。

## 7. Renat Heuberger (サウス・ポール・カーボン)

- **NAMAs** を行う上で、**CDM** の経験から学ぶことは多い。気候変動対策には、特効薬は存在せず、**CDM** は気候変動問題に貢献してきたと言える。また、運用費用を低く抑えられる点、さらに民間企業からのファイナンスを利用できる点が優れている。

### ■ 質疑応答

**Q.** UNDP のツールについて、その信頼性及びツールを使用することによる利点を明確化して欲しい。

**A.** Tobias Schmidt (ETH ZURICH) : このツールは 1 つのモデルである。どの国でも利用可能であり、自国のデータを適用することで、政策担当者にとって役立つツールとなるだろう。

**Q.** (GIZ 関係者) : 技術の複雑性と政策に関するグラフについて質問がある。複雑な技術を導入するための戦略として、外国投資が必要になると記載されているが、その前に知識などのソフト面での技術移転が必要になるのではないか。また、先進国の民間企業間での競争が激しいところで、どのように製品を売ることができるのか、考えがあれば聞きたい。

**A.** Jorn Hunteler (ETH ZURICH) : 複雑な技術製品を売するためには政策支援が必要である。安定的な管理体制や出資機能を持つ組織も必要だと考えられる。また、ホスト国での経験の蓄積も重要である。外国投資は追加的に必要なものであって、ソフト面での技術移転が必要不可欠である。

(報告者 : OECC 木村 進一)

---

COP18 サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版 : [http://www.mmechanisms.org/relation/details\\_oecc\\_COP18report.html](http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_COP18report.html)

英語版 : [http://www.mmechanisms.org/e/relation/details\\_oecc\\_COP18report.html](http://www.mmechanisms.org/e/relation/details_oecc_COP18report.html)